

技藝院（文化財保存・新造形技術研究センター）

令和4年度活動報告

GIGEIN (Research Center for Cultural Property Conservation and New Creative Technologies) activity report

●林 暁、新谷 仁美／技藝院

HAYASHI Satoru, SHINTANI Hitomi / GIGEIN

●Key Words: Preservation, Crafts, Digital Design, Historic building, 3D Design

1. 令和4年度の技藝院概要

技藝院が発足して3年目の本年度は、富山大学の五つの重点項目が定められ、ミッション実現戦略の一つとして技藝院が選ばれました。昨年までの活動と異なり、文科省から活動資金を獲得できるようになり、新しい専任の教員を迎えて、より強力な研究・社会貢献活動が可能になりました。技藝院の使命・役割は以下の通りです。

- 芸術文化学部の「ものづくりの伝統」と「革新的な現代の技術」を活用して芸術文化の発展に貢献する。
- 地域の文化財保存修復において卓越した手技と最新のデジタル技術を用いてより精度の高い問題解決方法を研究し提供する。
- 3Dデジタル技術を活用した新しいものづくりを研究し、新時代の美術やプロダクトを生み出す。
- 文化財の保存修復や新造形技術の研究を大学教育に生かし、時代の求める人材育成を目指す。

2. 技藝院の組織図及びメンバー構成

技藝院に五つの部門を設け、それぞれに芸術文化学部に所属する教員を配置します。

- 文化財保存（林暁センター長 以下8名）
- 木質建築（大氏正嗣教授 以下5名）
- デジタルミュージアム（安嶋是晴准教授 以下4名）
- デジタルファブ리케이션（内田和美教授 以下5名）
- デザイン（岡本知久講師）

3. 新規教員及び研究員の採用

前述したように技藝院に対して文科省から予算措置がなされるようになったので、木質建築、デジタルミュージアム、デジタルファブ리케이션の各部門に助教または研究員を新たに迎える計画を立て、人事を進めました。木質建築、デジタルミュージアムの分野では年度後半にそれぞれ建築構造が専門の井上祥子特命助教、プログラミングが専門の三上拓哉特命助教が採用され技藝院の新しいメンバーとして奉職するこ

ととなりました。デジタルファブ리케이션の人事は、一度決まりかけた人が辞退するなど難航しましたが、非常勤の研究員として今井紫緒さんが来年度から参加してくれることになり、デジタルデバイスやソフトに精通し、文化財保存に関する実務経験も豊富なことから大変頼りになる人材です。新しい若いメンバーが加わった技藝院で、現有の教員と協力しながらさらに深化した研究活動が進むものと大変期待しています。

4. 今年度の活動

- 地域の国指定重要無形・有形民俗文化財（祭り屋台等）の保存修復
 - ・富山県 高岡御車山祭りの修理監修
御馬出町高欄（雪山）、高欄（接手金具）、車輪釘二番 町鉾留（竿、桐の花）、
 - ・富山県 城端曳山祭り
大工町「千枚分銅山」西下町「諫鼓山」修理監修
 - ・佐賀県 唐津くんち
刀町「赤獅子」修理監修
 - ・岐阜県 飛騨古川祭り
「龍笛台」「金亀台」修理監修
- 高岡市二上射水神社築山行事に用いられる四天王及び天狗面の面を3Dスキャニング、3Dデータ編集などの技術を用いて復元新調
- 唐津くんち一番山「赤獅子」八分の一模型の制作（二年目）。昨年度収集した3Dデータを基に、木製の台車部は小川講師が部材を全て正確に削り出し組み上げた。また獅子頭は新谷特命助教が塗りと加飾を行った。
尚、赤獅子の鬘と高岡二番町の竿の制作は卒業生の岡田歩さんにお手伝い頂いた。



図 1 高岡御車山「御馬出町」車輪金具の修復、漆塗装



図 5 飛騨古川祭りでの調査風景

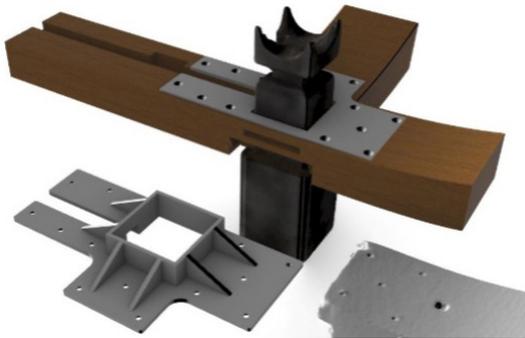


図 2 御馬出町 高欄（接手金具）の CAD を用いた設計及び製作監修

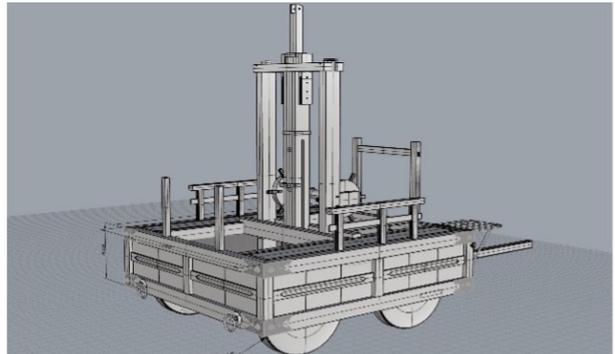


図 6 唐津くんち「赤獅子」の頭漆塗り制作途中（下地を施したところ）



図 3 御馬出町 高欄（雪山）の内部構造を、富山大学病院の CT スキャナーをお借りしてデータを撮って頂いた。これにより造りのはっきりわかり修理の手掛かりとなった。



図 7 唐津くんち「赤獅子」の頭漆塗り制作途中（下地を施したところ）



図 4 高岡二上射水神社の築山祭りで使われる天狗面のスキャンング



図 8 唐津くんち「赤獅子」の完成写真。最後の組み立ては地元の方と一緒にいった。